

<農地・水・環境保全向上対策と連携して効果的な取組を実施している事例>

## ○里山の生物多様性の保全と集落ぐるみの獣害対策

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	三重県多気郡大台町 滝広			
協定面積 1.2ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲			
交付金額 21万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	農業機械購入等		25%
		獣害対策		15%
	農用地、水路の維持管理		10%	
協定参加者	農業者 4人、水利組合 1人			

### 2. 取組に至る経緯

圃場整備により、かつての谷津田が乾田化し、農薬散布により、湿地・湿田で生息していた生き物が非常に少なくなりました。このような生き物が生息できる環境を整えながら、無農薬・無化学肥料で農業生産を行うことにした。

また、集落住民の高齢化やサル、シカ、イノシシによる獣害により農業をやめたり、家庭菜園を作らなくなったりするなど農業に対する生産意欲が低下してきたため、ボランティア組織を立ち上げ、環境美化やサルの遊動調査・追い払いを実施することにした。

### 3. 取組の内容

田の取水口に約100㎡のビオトープ池を掘り、生き物が田と池を自由に往来できるようにした。そして、約20aの田を冬期湛水したり、農用地内の約80%の田で完全無農薬有機栽培を実施している。これにより、冬期にヤマアカガエルが産卵に訪れたり、メダカ、タニシ、イトミミズ等が増殖し、野鳥のエサ場にもなっている。またサカマキガイも増え、夏はヘイケボタルも多く見られるようになった。

獣害対策では、集落内にサルを入れないよう、みんなで追い払うようにしている。テレメーターによりサルの群れの動きを知り、接近すれば花火で追い払うことにしている。未然に被害を防ぐことができる。シカ、イノシシの場合は、集落全体約2kmを柵で囲うことにより侵入を防ぎ、谷川等では電気柵も使用している。月1回程度、行政や区ボランティアで「けもの会」という会合を持ち、獣害対策について話し合ったり、住民の意識向上のためモデル畑を作ったり、勉強会も随時実施している。



集落全体への防獣ネット張り



ビオトープ池による生態系保全

### 【集落の将来像】

当集落は、急傾斜地であるため耕作放棄されれば、土砂流出、地滑り等の自然災害が起こりやすい状況にある。その耕作放棄地発生の一因である獣害も深刻な状況にあるため、集落ぐるみによる獣害対策を継続的に行うとともに、落葉樹を中心とした里山景観を復元し、自然生態の保全に努め、自然豊かな農村の維持を目指し活動を推進していく。



### 【将来像を実現するための活動目標】

集落ぐるみによる獣害対策を継続して実施するとともに、水田の多面的機能を維持し、多様な生き物が生息できる環境を整備する。さらに、子ども達も参加できる観察会や生き物調査などを開催し、生き物の恐れや痛み、感謝の気持ちを教育する場、地域の憩いの場となるようにする。

### 【活動内容】

農業生産活動等	多面的機能増進活動	その他の活動
耕作放棄地の復旧管理 (10a) (教育分野等他方面への利用) 共同取組活動	周辺林地の下草刈り (年1~2回) 共同取組活動	獣害対策 (サルの追い払いと防獣ネットの管理) 共同取組活動
用・排水路、農道の保安全管理 共同取組活動	景観保全と土壌流亡の未然防止のため、農道法面への雑木・花木の植栽 共同取組活動	担い手への農業技術の伝承 個別対応
無農薬・無化学肥料による水稲の栽培、管理 (60a) 個別対応	田んぼ内ビオトープの維持管理 個別対応	

## 4. 取組による変化と今後の課題等

農業生産においては、無農薬・無化学肥料で、ある程度の収穫が得られるようになった。また集落の古道や作業道周辺の伐採・草刈りをすることで、農用地を含めた里山の景観が維持されつつあり、かつての生き物たちも戻ってきて、豊かな生態系もできつつある。将来は観察会等も開催し、教育活動の場としても利用したい。

協定農用地を含む集落全体を防獣ネットで囲い、かなりの効果はあったが、今後、取組の検証等を行っていく必要がある。

### 【平成21年度までの主な成果】

- 田んぼ内ビオトープの設置、冬期湛水により豊かな生態系ができつつある。
  - ・ヘイケボタルの個体数増加 2008年 6月 7日 103匹
  - 2009年 6月11日 248匹
  - ・ヤマアカガエルの産卵状況 1月中旬から3月頃まで約100個の卵塊を産む。
- 耕作放棄地がなくなり、企業のCSR活動とも協働し、周辺環境を整備。
- サルの追い払い、集落囲いネットの設置による獣害の減少。